

第 19 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年12月16日（月）

18時～19時

オンラインにて実施

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

（1）第 18 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【資料 1】

（2）上伊那総合技術新校（仮称）再編実施基本計画（案） 【資料 2】

4 その他

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第19回上伊那総合技術新校「新校再編実施計画懇話会」構成員名簿

◎座長

	区分	新規構成員	氏名	所属等	役職等
1	自治体		宮澤 和徳	辰野町教育委員会	教育長
2			小林 久通	箕輪町教育委員会	教育長
3			田中 俊彦	南箕輪村	副村長
4			清水 閣成	南箕輪村教育委員会	教育長
5			福與 雅寿	伊那市教育委員会	教育長
6			小平 操	駒ヶ根市	副市長
7			◎ 加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長
8			片桐 健	飯島町教育委員会	教育長
9			片桐 俊男	中川村教育委員会	教育長
10				唐澤 直樹	上伊那広域連合
11	地域		布山 澄	上伊那地域振興局	局長
12	産業界	○	山寺 正子	辰野町商工会	代表
13			漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表
14			堀井 一政	南箕輪村商工会	副会長
15			山下 政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
16			向山 賢悟	伊那商工会議所	副会頭
17	同窓会		林 龍太郎	辰野高等学校同窓会	会長
18			小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
19			清水 満	上伊那農業高等学校同窓会	会長
20			湯澤 英喜	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長
21	PTA		矢澤 弥彦	辰野高等学校PTA	会長
22			岩井 直美	箕輪進修高等学校PTA	副会長
23			若山 冬樹	上伊那農業高等学校PTA	会長
24			坂間 真紀	駒ヶ根工業高等学校PTA	副会長
25	学校関係者		竹松 寿寛	上伊那中学校長会（赤穂中学校長）	副会長
26			片桐 広文	上伊那小学校長会（辰野東小学校長）	副会長
27			小池 景子	伊那養護学校	校長
28	学識経験者		松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
29			工藤 賢一	南信工科短期大学校	副校長
30	統合対象校関係者		茶城 啓二	辰野高等学校	校長
31			棚田 美穂	箕輪進修高等学校	校長
32			小池眞理子	上伊那農業高等学校	校長
33			福澤 竜彦	駒ヶ根工業高等学校	校長
34			○ 荻原菜々子	辰野高等学校	生徒会副会長
35			○ 藤沢カウ工勇志	箕輪進修高等学校	生徒会長
36			○ ザヒンラフマン マドルジョ	上伊那農業高等学校	生徒会長
37			○ 近藤 響佳	駒ヶ根工業高等学校	生徒会長

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰 野	齋藤 美幸（教頭） 小澤 潤也
箕 輪 進 修	岩田今朝宣（Ⅰ・Ⅱ部教頭） 倉田 誠司（Ⅲ部教頭） 井原浩一郎
上 伊 那 農 業	塩原 慎一（教頭） 山下 昌秀 境 久雄 相沢 哲也
駒 ヶ 根 工 業	藤田 晶子（教頭） 竹内 浩一 甕 力 白石 敦子

	氏名	所属等	役職等
長野県教育委員会事務局	佐野浩一郎	高校教育課 高校再編推進室	室 長
	原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第18回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時・会場	令和6年(2024年)11月12日 18時00分~19時30分 伊那市庁舎 5階 501・502会議室
出欠席	懇話会構成員(敬称略)(◎座長) 宮澤 和徳 小林 久通 田中 俊彦 清水 閣成 福與 雅寿 小平 操 ◎加藤 孝志 片桐 健 片桐 俊男 唐澤 直樹 布山 澄 漆戸 豊徳 堀井 一政 山下 政隆 向山 賢悟 林 龍太郎 小河 節郎 清水 満 湯澤 英喜 岩井 直美 若山 冬樹 坂間 真紀 竹松 寿寛 片桐 広文 小池 景子 工藤 賢一 茶城 啓二 棚田 美穂 小池真理子 福澤 竜彦 宮澤 奨英 酒井 輝也 根津 柚希 小山 将幸 出席者34名 欠席者3名 松井夕起子 矢澤 弥彦 松島 憲一
事務局	県教育委員会4名 佐野高校再編推進室長 原(多)主幹指導主事 内山主任指導主事 原(周)主任指導主事 辰野高校2名 齋藤教頭 小澤教諭 箕輪進修高校3名 岩田教頭 倉田教頭 井原教諭 上伊那農業高校3名 塩原教頭 山下教諭 境教諭 相沢教諭 駒ヶ根工業高校4名 藤田教頭 竹内教諭 甕教諭 白石教諭
傍聴者	傍聴5名(オンライン1名)、報道6社
会議事項	(1) 第17回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 群馬県立富岡実業高校視察報告 (3) 上伊那総合技術新校再編実施基本計画
当日資料	第18回伊那総合技術新校再編実施計画懇話会(資料1~資料3)

主な内容(意見及び発言等、→事務局回答 ◎座長のまとめ)

冒頭において新構成員及び今年度からの新たな構成員から自己紹介

今回の懇話会から辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市の教育長が新規構成員として参加。

会議事項について

(1) 第17回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(資料1)

・事務局から説明し、意見及び質問はなし

(2) 群馬県立富岡実業高校視察報告(資料2)

- ・1学年3クラスの規模で、農業科は生物生産科と地域産業科、工業科は電子機械科の計3学科が設置されている。
- ・入試方法として、農業と工業の大学科を超えた「くくり募集」を実施しているのが特徴の一つ。大学科間の「くくり募集」を実施している高校は、群馬県でも富岡実業高校のみである。
- ・地理的な背景もあり他地区からの流入がほとんどなく、生徒の大半が甘楽富岡地区から通学している。富岡実業高校に入学する生徒の多くは地元就職を考えている。
- ・「くくり募集」を行わなければ定員を満たすのは難しい状況であるが、卒業生の6割が就職し、その大半が周辺地域に残っており、地域に受け入れてもらえる環境がある。
- ・企業は専門的な知識は入社後に身につければよいと考えており、基本的な生活習慣が身につけている富岡実業高校の生徒を求めている。
- ・1年次を前期と後期に分けて、前期に各科の比較的取組やすい実習を体験し、後期から各学科に分かれて専門科目の学習を行う。
- ・「くくり募集」は各科の魅力についての理解が浅い中学生には、目的意識を持つためのよい機会となっている。
- ・知識技術の習得という点で課題がある。電子機械科の生徒からは、専門的な内容にもっと早く取組たい、「くくり」募集を農工別にして欲しいとの声も出ている。教職員からも専門科目を学習する時間が不足しているため、農業と工業という大学科の「くくり募集」は厳しいという意見もある。

【質疑】

- ・工業・商業・農業が一つになる総合技術高校で1+1+1が5や6になるような高校を作っていくと魅力ある新校にならないが、富岡実業高校はこの先に何か新しいアクションは考えているのか
→ 学科連携については取組がなく、課題意識を持っているように感じた。
- ・富岡実業高校は就職をメインに考えているが、多様な生徒の進路先は保障されているのか。
→ 地理的な背景等を踏まえ、この進路状況になっている。総合技術新校では様々な可能性を実現できるように考えていきたい。
- ・「多くは目的意識を持って入学していない」とあるが、上伊那地域あるいは長野県の実情はどうか。
→ 富岡実業高校の場合には、とにかく富岡実業高校に入りたいという生徒が多い。長野県では、各科の学びをやりたいて思って入学してくる生徒もいるし、周囲のアドバイスを聞いて入学してくる生徒もいる。
- ・「楽しい」という言葉の中身について分析していく必要があるのではないかと。
→ ご指摘の通り、「楽しい」という言葉の中身について、今後、分析していきたい。

(3) 上伊那総合技術新校再編実施基本計画

ア 統合方法

- ・新校では3科連携した学びを考えており、キャンパスを分けての年次統合となると、その実現が難しくなる。特に工業科は施設設備の関係から、一斉に移転と考えている。
- ・これまでの再編で、複数のキャンパスに分かれることは「総合技術高校としての一体感に欠ける」というご意見をいただいていた。
- ・このような理由から上伊那総合技術新校では一つの校地で、一斉統合を考えている。

【質疑】

- ・商業科については年次統合を含めて考える余地はないか。
→ 現時点では一斉統合と申し上げておくが、検討の余地はある。

イ 開校年度

- ・開校年度は第16回懇話会において「令和14年度以降の早期」としていた。当初の想定とは異なり、基本計画・基本設計・実施設計に約3～4年程度、工事期間が5～7年程度かかることが判明した。
- ・その他の外的要因もあり、施設整備に関して、将来にわたる見通しがつきにくい状況である。
- ・開校年度については現段階で何年度と明確にするのが難しい状況であり、議会上程にあたっての開校年度の表記については室内及び庁内で検討を進めている。

ウ 募集学級数

- ・第16回懇話会では「全日制課程 農業科・工業科・商業科 7学級程度」と提案させていただいた。
- ・伊那地域の中学校卒業予定数の推移や現在の募集学級数、上伊那地域の再編実施計画、上伊那総合技術新校の開校年度も踏まえて、改めて募集学級数について検討した結果、新校の募集学級数は5～6学級を想定している。
- ・募集学級数については、再編実施計画、既存校も含めた上伊那地域全体で考えていかなければならないが、総合技術高校として3科の学びを保障していくために、規模感を維持しながら、ある程度の学級数は残していきたい。

【質疑】

- ・学びを検討する際に、どの科が何クラスあるのか曖昧なまま進めるのには不安がある。あと10年かかるかもしれないという先の見えない中で何を基準に考えていけばいいのか。
→ 学級数は減るかもしれないが、コース制という形でも、現在の3学科の学びが必要であると判断していただければ、取組むために必要な施設設備は残したいと考えている。

エ 学びのイメージ

- ・「多様で探究的な学び」については、農業、商業、工業各科のテーマの間に「×(かける)」マークを入れて、各科がそれぞれ専門の学びを実現すると共に、3科の連携、6次産業をイメージした。
- ・「専門性を高め、多様な選択科目から、個々に応じた探究的な学びができるしくみ」は専門的な知識・技術を身に着けた生徒が、希望に合わせて、多様な選択科目から自分に合わせた学びを考え、選択し、個々に応じた探究的な学びが実現できるように考えている。
- ・「6次産業について高校生が考える農工商の融合した学び」は3科が連携した学びを表現したものである。
- ・上伊那地域全域にわたり地域連携を進める「上伊那地域共学共創プラットフォーム」を構築し、「学びの連携プラットフォーム」とのデュアルプラットフォームを構想している。

【質疑】

- ・総合学科高校と総合技術高校の違いは何か。
→ 総合学科の場合は様々な科目が選べるが、総合技術新校は、それぞれ農業科、工業科、商業科という科に属し、科を卒業するために最低限、履修及び修得しなければならない単位数が決まっている。
- ・上伊那総合技術新校では「くくり募集」を実施するのか。「くくり募集」で入学してから科を選択するよりは、専門性を追求した段階で連携したほうがいいのか。
→ 「くくり募集」については継続審議としている。専門的な学びをしてからの連携を考えている。さらには、選択して自らの学びが実現できるようにしていきたい。

【各校代表生徒からの意見】

- ・1年時に入学してから、その後に科を選択するのは賛成。そこから自分の学びたいことを見つけていける、そんな学校になればいい。
 - ・農業、商業、工業の3科の生徒が一緒に何かをすることは魅力的な取組だと思う。実習室などの安全面や環境面で新しい学校設備に期待したい。
 - ・農工商の学びを体験してから選べるようにしてほしい。1年次に自分のやりたいことを決めてもよいのではないか。
 - ・農工商が一つになると、一つの町になる。さらに大きくすると社会と同じとなり、そこから社会を身近に感じることができると思う。
 - ・他の学科の生徒は自分と思考が違うため、交流することで論理的思考力が向上すると思う。
- ◎本日、出されたご意見を参考にさせていただいて、2月の議会上程に向けて事務局で準備を進め、上伊那総合技術新校が地域の子供達にとって魅力的な学校になるように、引き続き検討を進めてもらいたい。

その他

- ・第19回懇話会は、令和6年12月16日(月)オンラインにて実施

1 再編統合対象校

辰野高等学校の商業科、箕輪進修高等学校の工業科、上伊那農業高等学校、駒ヶ根工業高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 17 年度以降 ※募集開始年度の表記については変更となる可能性がある。

学校規模の縮小化が避けられない状況の中、上伊那地区 4 校にわたる統合となり、総合技術高校として、施設の整備期間等を考慮し、新校の募集開始年度を令和 17 年度以降とする。

3 活用する校地・校舎

上伊那農業高等学校

新校で構想する学びの実現、学校規模、生徒の諸活動を支える施設・設備と校地の広さを考慮し、上伊那農業高等学校を新校の校地として活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科 3 学科あわせて 5～6 学級程度

農業科、工業科、商業科を設置する総合技術高校として、専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた 3 科の連携した学びが実現できる教育課程を編成する。

上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 5～6 学級程度が想定される。

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

「専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた 3 科の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる高校」を構想する。

6 統合新校の施設整備について

- ・使用可能な既存施設は有効に活用することを前提とし、再編統合による生徒数の増加や学科の改編等に対応するために必要な施設整備を行う。施設整備にあたっては、新たな学びや現在の生活スタイルに対応するよう配慮する。
- ・施設整備に係る概ねの期間 8～10 年程度を想定

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身のみらいをデザインできるひと
- 上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
- 多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校

*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい

農業

動植物の命や自然環境を通して、
食料生産や環境保全を学ぶ

〔野菜・果樹・植物・動物・フード〕
アグリ・里山・グローバル

商業

経済活動の実践を通して、
ビジネスに必要な知識・技術を学ぶ

〔マーケティング・流通・会計・〕
ビジネス情報・関係法規

工業

ものづくりを通して、
地域・社会を支える産業技術を学ぶ

〔機械・電気・情報技術〕

学びの連携プラットフォーム

ミックスホームルーム
3科融合したクラス編成

新たな単位認定
学校外学習の単位認定
学校間連携による単位認定等

3科協働を支える施設
プレゼンルーム クリエイティブラボ（協働実習室）
ウェルビーイングルーム（魅力発信研究室）等

○学科の枠を超えた学び

- ・学科の枠を超えた学びの実践により「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等、調和のとれた、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する
- ・学科の枠を超えた学びを通して人間性を高め、自らみらいをデザインできる力を育てる

○みらいの産業界のつくり手の育成

- ・様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む

○専門性を高め、多様な選択科目から、個々に応じた探究的な学びができるしくみ

○6次産業について高校生が考える農工商の融合した学び

○DX時代に対応できる共通した学び（AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等）

○上伊那地域全域を舞台に、探究し、発信できる地域連携

○上伊那総合技術新校での学びを最大限に活かした資格・検定への挑戦

地域連携協働室を創設し、地域連携コーディネーターを配置

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、イノベーションの創出に貢献できる生徒を上伊那地域全域で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学校

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校（幼保小中高大特支）

産業界

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身のみらいをデザインできるひと
- 上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
- 多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

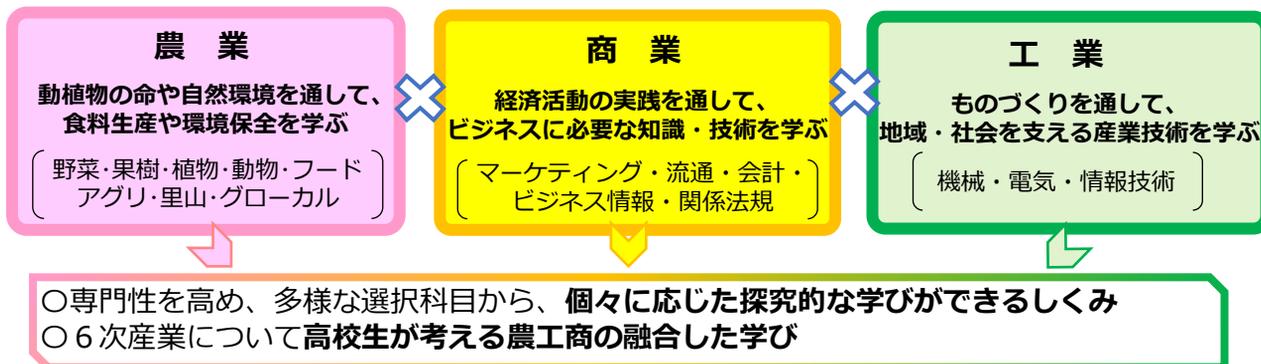
目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校

*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい



学びの連携プラットフォーム

ミックスホームルーム
3科融合したクラス編成

新たな単位認定
学校外学習の単位認定
学校間連携による単位認定等

3科協働を支える施設
プレゼンルーム クリエイティブラボ (協働実習室)
ウェルビーイングルーム (魅力発信研究室) 等

○学科の枠を超えた学び

- ・学科の枠を超えた学びの実践により「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等、調和のとれた、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する
- ・学科の枠を超えた学びを通して人間性を高め、自らみらいをデザインできる力を育てる
- ・共通した学びによりDX時代に対応できる力を育てる (AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等)

○みらいの産業界のつくり手の育成

- ・様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む
- ・地域連携を通じて上伊那地域全域を舞台に、探究し、発信できる力を育む
- ・上伊那総合技術新校での学びを最大限に活かした資格・検定へ挑戦する力を育む

地域連携協働室を創設し、地域連携コーディネーターを配置

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、イノベーションの創出に貢献できる生徒を上伊那地域全域で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学校

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校 (幼保小中高大特支)

産業界